

## 定例市政記者クラブ・市長懇談会（7月）の結果について

日時 平成24年7月3日（火）午前11時～午前11時35分

場所 市役所2階第1委員会室

出席 市政記者クラブ12社

会見内容

### 1. 話題提供（5項目）

#### 1. 平成24年度釧路市重要懸案事項に係る中央要請行動について

- 概算要求の時期を迎えまして、平成25年度の道や国の予算確保に向けた中央要請行動を札幌及び東京で実施いたします。
- 釧路市単独の要望として、7月5日は、札幌におきまして北海道庁、7月6日は、北海道開発局、北海道経済産業局などに要請を行います。
- また、7月27日には、東京におきまして、釧路市及び釧路地方総合開発促進期成会の要請行動を、国会議員をはじめ、国土交通省、農林水産省など中央省庁に対して行う予定です。
- 今回の中央要請行動におきましては、釧路市として、新規要望7項目を含めた、29項目の重要懸案事項について要望いたします。このうち、新規要望を中心に概要を説明いたします。
- 地方の意見を踏まえた空港経営改革では、国に対して、空港経営改革に向けた地方への十分な情報提供と合意、釧路空港の存続と路線の維持、空港施設の公共性と安全性の確保等を要望するとともに、北海道に対しては、道としての空港経営改革に向けた方針を示し、地元自治体と連携した取組を推進することについて要望いたします。
- 道立高等支援学校の設置等では、6月5日に道教委が公表した、平成25年度の「公立特別支援学校配置計画（案）」において、平成26年度の見通しとして釧路地域への2学級相当の間口の確保を検討することが示されたところであり、釧路市内への道立高等支援学校の設置が実現するよう、今後も要望してまいります。
- 介護保険施設等の整備では、現在、市内における特別養護老人ホームのベッド数は650床であります。今年度中に40床が整備される予定となっております。これに対し、入所希望者数は本年2月現在で1,191人となっており、施設の更なる整備が急がれるところであります。

阿寒地区では布伏内に鶴の園（80床）がございますが、開設が昭和52年と古く、施設の老朽化が目立つ状況となっていること、市街地から離れているため利用者や家族にとって不便であり、介護従事者の確保においても支障となっていることなどから、阿寒町本町地区への移転改築が計画されております。

また、市全体の待機者解消に資するため、移転改築に合わせて10床の増床とショートステイ10床の併設を行うものであり、それら施設整備に対する道の財政支援について要望するものです。

- 地震・津波災害に強いまちづくりの推進では、当市におきましては、津波防災・減災対策事業を早期に実施することが喫緊の課題となっており、災害発生時において、災害援助、災害復旧の拠点となり、被災後の社会経済機能を維持する上でも行政が保有する住民情報等の損失を最大限防止し、災害対策本部機能を維持することが極めて重要でありますことから、大津波の発生の可能性が高い、釧路地区および音別地区における防災まちづくり拠点施設の早期整備などについて要望するものです。

- 環境省地方環境事務所の存続では、国の出先機関の統廃合の流れの中で、環境省地方環境事務所の広域連合化などが取り沙汰されております。

国立公園の指定管理、野生生物や生物多様性の保全等の事務事業は国の責任において国際基準で行われるべきものと考えております。

東北北海道は、3か所の国立公園・世界自然遺産・7か所のラムサール条約登録湿地を有しており、この地域を管轄する環境省釧路環境事務所の仕事は、世界自然遺産条約・ラムサール条約・生物多様性条約・渡り鳥条約など、条約履行に直結するものと言えます。

こうした観点から、環境省釧路自然環境事務所をはじめとする全国各地の環境省地方環境事務所の存続について要望するものです。

- 阿寒湖の世界自然遺産登録に向けた取組への支援・協力では、世界自然遺産の新たな国内候補地を選定する環境省と林野庁の有識者検討会が9年ぶりに今年の秋にも開かれる予定であります。

当市では、マリモを育む阿寒湖の自然環境保全を視野に、「阿寒湖のマリモ」の唯一無二の貴重さをアピールし、世界自然遺産登録に向けた取組を進めていきますことから、国や北海道に対して、支援・協力を要望いたします。

- 釧路市立学校施設耐震化PFI事業に係る耐震補強事業及び大規模改造事業では、市内小中学校施設のうち耐震化の完了していない施設は、小学校13校、中学校6校の計19校あり、児童生徒が安全で安心な学校生活を過ごすために、また、災害時における地域住民の応急避難施設としての機能を確保するためにも、一日も早い耐震化の完了が求められています。

また、耐震化未完了の19校は全て老朽化が著しく、耐震化と同時に大規模な改修が必要となっている状況です。

今年度から進めている、耐震補強事業と大規模改造事業を同時に実施する市立学校施設耐震化PFI事業において両事業に係る国庫補助事業の同時採択を国に対して要望して参ります。

- そのほか、北海道横断自動車道をはじめとした道路網の整備促進や、産炭国石炭採掘・保安技術高度化事業の発展・継続などの重要懸案事項についても要望をいたします。

## 2. 世界自然遺産 候補地に向けた庁内会議の立ち上げについて

- 世界自然遺産登録につきましては、環境省が新たな候補地の検討作業に入ること、**「阿寒湖のマリモ」**の候補地登録に向け、地元阿寒湖温泉地区の皆さんも勉強会などを開催していただいているところであります。

- 市といたしましても、候補地登録に向けた展開を進めていくことが重要であると考えており、まずは、庁内の関係部署による調整会議を立ち上げることにいたしました。世界自然遺産候補地登録に向けた情報共有を図ることと、各部署の連携による展開を進めていくこととしております。

会議のメンバーにつきましては、小松副市長をリーダーとして、総合政策部、市民環境部、産業振興部、阿寒町行政センター、生涯学習部の部課長で構成いたします。初回の会議は7月中旬までに開催したいと考えており、会議は来年の3月末までを基本としたいと考えております。

- また、世界自然遺産候補地選定に向けて、環境省等にも単独要望を行うこととしており、今後は地元阿寒湖温泉地区の皆さんとも情報共有をしながら機運を高めてまいりたいと考えております。

## 3. 今夏の市有施設の節電の取り組みについて

- 釧路市では、これまでも率先した節電への取組みを進めてきたところですが、今年の夏季における道内の供給電力が、2010年のピーク時に比して7%不足する恐れがあるとのことから、6月5日の釧路地域電力需給連絡会議において、国から節電に向けた取組みの要請があったところであります。

- 市といたしまして、このほど、本庁舎を含む市有施設の取組み内容をまとめましたので、ご報告いたします。

取組み期間につきましては、平成24年7月23日（月）～9月14日（金）まで（但し、土日、祝日、お盆期間を除きます）としております。

主な取り組み内容につきましては、①照明の間引き・LED等高効率照明への交換、②上下水道施設運転時間調整、③電気温水器、温水洗浄便座、エアタオル等、電熱機器の使用自粛、④パソコンの省エネ設定、⑤エレベーターなど動力設備の稼働停止、⑥待機電力の削減などとなっております。

- これらの取り組みにより、マイナス846kW、率にしてマイナス7.68%の削減を見込んでおります。

このほか、北海道電力から緊急の節電要請があった場合は、非常用自家／発電機の稼働などにより、更にマイナス13.21%の削減を見込んでおり、市民の皆様にもご理解とご協力をいただきながら、節電に向けて取り組んでまいりたいと考えております。

- なお、7月4日、北海道電力釧路支店に出向きまして、これら取り組み内容のご報告とともに、釧路地域の経済産業をはじめ、医療・介護分野・交通安全等、市民生活への混乱や影響を避けるためにも、計画停電の回避について、要請をしてまいりたいと考えております。

#### 4. 亜細亜大学硬式野球部の釧路合宿について

- 過日、6月29日に亜細亜大学硬式野球部の3年連続となる夏季合宿が実施されることが正式に決定となりましたので、お知らせいたします。釧路市といたしましては、心よりご歓迎申し上げたいと思っております。

- 先般、硬式野球部の西村副部長が来釧され、昨年の秋季に続く東都大学野球春季リーグ戦優勝のご報告と8月6日からの釧路合宿が決定した旨のお話を伺いました。

- 今年の合宿は、8月6日から20日までの15日間の日程で、約50名の部員が参加し、釧路市民球場、同附属球場、同屋内練習場を使用して実施されます。

また、現時点では日時が未定ですが、旭川大学や東京農大生産学部などとのオープン戦のほか、例年実施されております小学生を対象とした少年野球教室の開催も予定されております。

いずれも、一般に公開されますので、是非、多くの方にご覧いただけるよう市のホームページでもお知らせしてまいります。

- 亜細亜大学 硬式野球部の皆さんが、冷涼な気候のもと、有意義な合宿を行われ、よりチーム力がアップされることと、本市の野球競技の振興、競技者の技量向上に大きな刺激を与えていただけることを期待しており、市民皆様とともに温かいおもてなしの心で、お迎えしたいと思っております。

- なお、今年度、スポーツ合宿で来釧される団体につきましては、これまで把握しているところでは、亜細亜大学を含め、24団体620名となっており、昨年度とほぼ同様の状況にあります。

## 5. ライオン・オス「アキラ」の来園について

- 既に報道いただいておりますが、釧路市動物園では、3月にオスのライオン「キング」が死亡してからメスの「ゆうき」（4歳7ヶ月）1頭のみとなっていたため、早期にオスの導入を図りたいものと探していたところ、旭山動物園からオスの「アキラ」（5歳7ヶ月）を無償で譲っていただけることとなり、6月16日に無事搬入を終えたところであります。
- 搬入当初は、周りの様子を気にしながら片隅にたたずむ状況で、百獣の王ライオンの威厳とは少々かけ離れ、かなり落ち着かない様子を示していましたが、到着翌日からは徐々に落ち着くようになり、6月22日から屋外運動場に出して展示しております。  
なお、屋外運動場が1箇所となっておりますので、交代しながらの展示となり、ゆうきが屋外運動場に展示されている場合には、アキラは室内で観覧していただくこととなります。
- 両サイドにはアムールトラのココアとリング(ココアの父親)がそれぞれ展示されており、2頭の存在を気にする素振りを見せておりますが、少しずつ新しい環境に慣れているようです。
- 屋外運動場での2頭の同居の目処は、来園から1ヶ月となる7月中旬ごろからを考えており、夏休みが始まる頃には2頭が仲良く外の運動場で過ごす様子が見られるのではないかと期待しております。

## 2 質疑要旨

(質問)

- ・ 阿寒湖の世界自然遺産登録に向けた取り組みについてお聞きします。阿寒湖世界自然遺産登録庁内調整会議では計画等を策定するのでしょうか。

(総合政策部長)

- ・ 庁内調整会議は計画を策定するための組織ではなく、情報と認識の共有のために設置する組織です。そのため会議も必要のつど開催することとしています。

(市長)

- ・ 国の有識者検討会では秋頃から議論を始めて年度内に候補地の結論を出す予定と

聞いております。そのため、折々で情報等を収集し、庁内関係課でそれら情報について共有しながら、その中で対応が出てくると思います。

(質問)

- ・ 年度内で候補地として採用されないものは当面採用されないということですか。

(市長)

- ・ 今までのものをすべて合わせて国内の候補地を検討するということから、そうなると思います。

(質問)

- ・ 現時点で、釧路市として、阿寒湖の世界自然遺産登録に向けてやっておかなければいけないこと等はありますか。

(市長)

- ・ 先ほどの庁内調整会議を立ち上げまして、国等の動きについては情報収集をしながら、あわせて、世界自然遺産候補地選定に向けて、国や北海道に対して要望活動を実施するところです。

(質問)

- ・ 節電についてお聞きします。節電の取り組みについては7月23日から実施するとのことですが、以前お聞きしたところ、出来るものは前倒しで行い、効果があると認められれば期間が過ぎても続けていくとのことでした。今回の節電は期間を限定して行うものですか。また、照明の間引きはいつ頃を予定していますか。

(環境保全課長)

- ・ 庁舎内の照明の間引きについては、7月23日に急に始める訳にもいかないものですから、それ以前に徐々に実施することを想定しておりますが、具体的な日程については検討中です。

(市長)

- ・ 節電対応については、基本的に要請にあわせてしっかり進めていくものとしております。

(質問)

- ・ 上下水道施設の運転時間の調整とは具体的にどのような取り組みですか。また、水圧には影響はないのですか。

(環境保全課長)

- ・ 節電時間が日中から夕方までですので、この時間帯で行っている作業を夜に実施

するということです。昼間動かしている機械を夜、稼働させることによって、電力そのものの一日の使用量は変わりませんが、日中の使用量を下げることとしています。水圧への影響はないと考えています。

(質問)

- ・ 削減率マイナス7.68パーセントという数値は対応できるのでしょうか。

(市長)

- ・ 照明の間引きやLED等への交換でマイナス2.90パーセント、上下水道施設の運転時間の調整でマイナス2.75パーセント等、節電時間の中でしっかり対応していくということで一つ一つ算出したものですから対応できると判断しています。

明日、北海道電力に節電の取り組み内容について報告しますが、計画停電を避けるために、どういったことを行っていくかが重要だと考えています。産業分野では、特に酪農について言えば、搾乳している時間に停電になったらすべてだめになってしまいますので、そういったことを踏まえて、計画停電を行わないためにどのようなことを進めていくかという情報を一早く出してもらうことを要請していきたいと考えております。

(質問)

- ・ 津波地震対策についてお聞きします。防災まちづくり拠点施設を北海道に要望されますが、今回、道が発表した新しい津波シミュレーションの想定に対して、拠点施設の内容が今のままで良いのか、それとも練り直しが必要なのか、その点についてはどうお考えでしょうか。

(市長)

- ・ 津波対応策の基本として、国の中央防災会議では、津波のレベル1については、ハードで守れるものとして、さまざまなインフラで対応していくこととし、レベル2については、避難を軸としたソフト対策を行うこととしています。

今回、北海道が新しい津波シミュレーションを発表しましたが、道として新しい津波シミュレーションにどのように対応していくかはまだ決まっていない状況です。市としましては、国の中央防災会議で報告された500年間隔地震津波への対応というのがまずあって、その上で、今回、道が独自に発表した新しい津波シミュレーションへの対応と、両方を考慮した中で対応していくことを考えております。

(質問)

- ・ 計画している防災庁舎の高さや構造の見直しは考えているのでしょうか。

(市長)

- ・ 新しい津波シミュレーションによって浸水予想がこれまでよりも高くなっていま

すので、その対応は考えていかなければならないと思っています。

(質問)

- ・ 地域防災計画と新しいハザードマップの策定スケジュールについてお聞きします。

(防災危機管理主幹)

- ・ 現在、地域防災計画と津波ハザードマップの見直し作業を平行して進めておりまして年度内にまとめる予定です。地域防災計画については、その後、来年度の防災会議で承認を得ることとなります。

(市長)

- ・ 市町村の地域防災計画は道の北海道地域防災計画に基づくこととなっておりますが、6月に修正された道の地域防災計画では、最大クラスの津波を想定して対策を講じると記載されているものの、具体的にどのような対策を講じるかは示されていませんでした。また、北海道が発表した新しい津波シミュレーションは、国での位置づけがまだ明確になっておらず、別物になっています、そうすると避難を軸としたソフト対策を進めていくとしても、避難路となる道路がどう位置づけられるか等、不透明な部分があります。そういった不明な点があいくつもありますので、道としての考え方を示していただきたいと話しています。

(質問)

- ・ 北海道エアシステムについてお聞きします。今後、道の支援策が見えてくると思いますが、釧路市としてどう対応していくのかお聞かせください。

(市長)

- ・ 道議会の中で、さまざまな議論や北海道の考え方が出てくると思っていますので、今は道議会での議論を注視していくという状況です。

先だって開催された北海道エアシステムの株主総会に、市から小松副市長が出席しましたが、中長期的な計画が見えないことが大きな課題だと考えています。釧路市としても、北海道エアシステムが道民の翼として、北海道にとってのコンピューター航空（地域航空）会社として、必要という観点から出資した経過があります。その時も道から説明を受けながら進めてきましたので、しっかりとした中長期的な計画を示していただきたいと話をしているところです。

(質問)

- ・ 市政懇談会は先日終了しましたが、その際、話をされていましたが都市経営戦略プランについては伝わったとお考えですか。

(市長)

- 都市経営という言葉については一定程度のご理解をいただいたと考えております。市政懇談会では地域のさまざまな課題や市政に対するご意見をいただくことができました。大変有意義な時間であったと感じておりまして、ご参加いただいた市民の皆様に感謝しております。